

# 環境保全の取り組みで成果

公明党横浜市会議員団

仁田まさとし

今年11月、APEC首脳会議が横浜で開催され、これにより、横浜が国際社会から大きな注目を集めることになるでしょう。国際社会の中で最も重要な課題の一つに地球温暖化が挙げられます。一昨年、政府から「環境モデル都市」として選定された横浜市は、脱温暖化行動方針「C-DOO30」を掲げ、20

25年までに市民1人あたりの温室効果ガス排出量を30%以上削減する取り組みを進めています。今年、脱温暖化などのエコ活動を今まで以上に推進する年になっています。

環境に対する配慮から報告書全体の印刷は行わず、水道局のホームページで公表しています。

## 概要版やジュニア版も

昨年12月に公表された平成20年度版では、報告書全体の内容をまとめた「概要版」や小学生向けの「ジュニア版」を新たに作成しました。

この中では、自然エネルギーの有効活用などにより、水道水の製造過程における二酸化炭素の排出量が前年度比で約3・5%減つたことが報告されています。同時に、環境対策の取り組みの結果、旭区とほぼ

同じ面積の森林が1年間に吸収する二酸化炭素量を削り減できたことも分かりました(右図参照)。

報告書全体は水道局のホームページ(横浜水道環境報告書)で検索、概要版は区役所広報相談係で配布していますので、ぜひご覧いただき、感想や意見を水道局にお寄せください。

## 分かりやすい言葉で

1ムページ(横浜水道環境報告書)で検索、概要



### 仁田まさとし プロフィール

- 都市経営・行政運営調整委員会副委員長
- 安全安心都市特別委員会委員
- 公明党横浜市議員団団長
- ◇施政方針は「大胆に挑戦、誠実に実現」
- ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>

私はこの報告書を多くの市民に読んでもらえるように、分かりやすい言葉を使うことや見やすいホームページの作成などを昨年10月の市会決算特別委員会などで求めてきました。「概要の構築を目指します。」

水道局の平成20年度の環境保全効果  
二酸化炭素の排出量換算で約24,862tの削減効果がありました。



旭区分の森が出現!



約24,862tの削減量は旭区の面積とほぼ同じ広さの森林3,271haが1年間に吸収する二酸化炭素の量に相当します。